



(2) 小中合同授業研究会 (7月7日：中学校、10月26日：小学校)

- 小中学校教職員がお互いの授業を参観し合い、お互いの専門性に学び、授業研究することで、指導方法の工夫改善に活かすことを目的として実施した。
- 参観し合うだけの小中合同の授業研修にならないよう、視点をもとに付箋紙(効果的な取組や課題となること等)を活用して評価し、記載した内容を参考にしながら意見交換を行い、研究会の質の向上を図った。



〈教職員の活発な協議〉



〈小中合同対面式〉

(3) 小中合同対面式

- 4月に生徒会が中心となって小中学校の対面式が行われた。小中それぞれの校長先生の話や児童会・生徒会代表のあいさつが行われ、相互理解の機会とした。
- 中学生に対する信頼の心情を育てたり、小学生に対する思いやりの心情を育てたりする場となるようにした。

(4) 中学校教員による6年算数の授業(9月24日)

- 中学校の定着確認シートを活用

### 3 地域・家庭をつなぐ

(1) 講演会(7月11日)

講師シンガーソングライターの菊池彰夫氏を招き、講演「未来の子供たちの輝く笑顔のために…」を行った。

(2) 「さゆりっ子家庭学習の手引き」

各小中学校での家庭学習の時間・内容・家庭での支援についてまとめ、各家庭へ配付し、パンフレットを手元に置いて活用できるようにした。

## 成果(○)と課題(●)

- 小中学校の共通8項目を設定した学校評価を年2回実施し、小中間の課題の共通理解を図ることができた。
- 「授業の流れスタンダード」を活用したことにより、授業展開が統一され、子どもが見通しを持ち、主体的に学ぶ姿が見られるようになった。
- 小中合同授業研究会では、小中学校での指導の基本的な考え方や姿勢を共有することができた。
- 「さゆりっ子家庭学習の手引き」や「さゆりっ子を伸ばす子育てのポイント」を作成・配付したことで、家庭学習の習慣と継続が図られてきた。
- 小中間の共通理解・共通認識のもとで、それぞれの取組が充実した実践になるように、事前の打ち合わせ・確認を行うための時間を十分に確保しなければならない。
- 授業の改善については、表面的・形式的な部分のみにとらわれず、更に児童生徒主体の授業となるよう努めなければならない。

